

**東大阪市**  
**男女共同参画に関する市民意識調査**  
**<結果報告書>**

平成 26 年（2014 年） 9 月

**東 大 阪 市**



## はじめに

本市では社会を構成するすべての人々が性別に関係なく対等な一員として認め合い、仕事、家庭、地域など、あらゆる分野において平等に参画する機会を有し、喜びも責任もわかちあう男女共同参画社会の実現をめざして、平成 23 年に「第 3 次東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい <sup>はばたき</sup> 翔プラン～」を策定しました。

この計画は本市の男女共同参画政策の指針を示すものであり、平成 23 年度を初年度として、計画の期間を 10 年間、目標年度を平成 32 年度としています。長期計画であるプランの実行性を保ち、社会情勢に対応した適切な施策を推進していくため、この度プランの見直しを行うこととし、その基礎資料とするため、市民意識調査を実施いたしました。

今回の調査から見えてきた本市の特性や市民ニーズ、新たな課題を考慮し、市民の皆様の声を十分に反映したより効果的な計画となるよう努めてまいります。

結びに、本調査にご協力していただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも男女共同参画社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年（2014 年）9 月

東大阪市長 野 田 義 和

## 目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査概要	2
3. 報告書の見方	3
4. 標本誤差	4
5. 回答者の属性	5
6. 主な調査結果	15
II 調査結果	19
1. 仕事について	20
2. 日常生活や子育てについて	51
3. 男女の地位に関する意識について	71
4. 地域活動や健康、老後の暮らしについて	82
5. 人権の尊重について	104
6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について	113
III 調査結果からみえてくるもの	119
1. 男女共同参画に向けた意識形成	120
2. 男女が共に活躍できる環境づくり	120
3. 男女が共に自立し、安心して暮らせる生活支援	124
4. あらゆる暴力の根絶	125
IV 自由意見のまとめ	127
V 調査票	133

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に関する意識と実態を知ることにより、「第3次東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい <sup>はばたき</sup> 翔プラン～」の見直しに関して、社会情勢の変化に対応し地域に根差したものになるよう基礎資料を得ることを目的として実施します。

## 2. 調査概要

- ・調査地域：東大阪市全域
- ・調査対象：市内在住の満18歳以上の男女
- ・抽出数：3,000人（男性1,500人、女性1,500人）
- ・抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- ・調査期間：平成26年6月16日（月）～7月7日（月）
- ・調査方法：郵送配布・回収
- ・調査項目：1. 回答者について  
2. 仕事について  
3. 日常生活や子育てについて  
4. 男女の地位に関する意識について  
5. 地域活動や健康、老後の暮らしについて  
6. 人権の尊重について  
7. 男女共同参画社会の形成に関する意識について  
その他
- ・回収状況

	全体	女性	男性	その他	不明・無回答
標本数	3,000	1,500	1,500	—	—
有効回収数	1,117	645	459	1	12
有効回収率	37.2%	43.0%	30.6%	—	—

### 3. 報告書の見方

---

---

- 回答結果の割合「%」は有効回収数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「不明・無回答」とは、回答が示されていない、または、回答の判別が困難なものです。
- グラフ及び表のN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 「前回調査」は「東大阪市男女共同参画に関する意識調査報告書」（平成22年3月）を資料としています。

## 4. 標本誤差

本調査では、18歳以上の市民の皆さんから調査対象を抽出するという標本調査の方法を用いています。そのため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じる場合があります。95%の確率で標本誤差を求めるには下記の式で求められます。

$$E = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

E：標本誤差

N：母集団の大きさ（全体：422,049 女性：217,561 男性：204,488）

※H26年6月末現在の18歳以上人口

n：標本の大きさ（全体：1,117 女性：645 男性：459）

P：回答の比率

表により、女性の回答者645人の場合、例えばある設問について、その設問の「A」という選択肢を回答した人の割合が70%であったとき、標本誤差は±3.5%となります。その結果、東大阪市在住の18歳以上の女性全体で「A」という選択肢を回答する人の割合は66.5%（70%－3.5%）～73.5%（70%＋3.5%）であると推定することができます。ただし、信頼度は95%であるため、その推定が誤りである確率は5%です。

なお、n（回答者数）が極端に少ない場合は、その集計結果は参考までにとどめ、分析は行わないものとします。

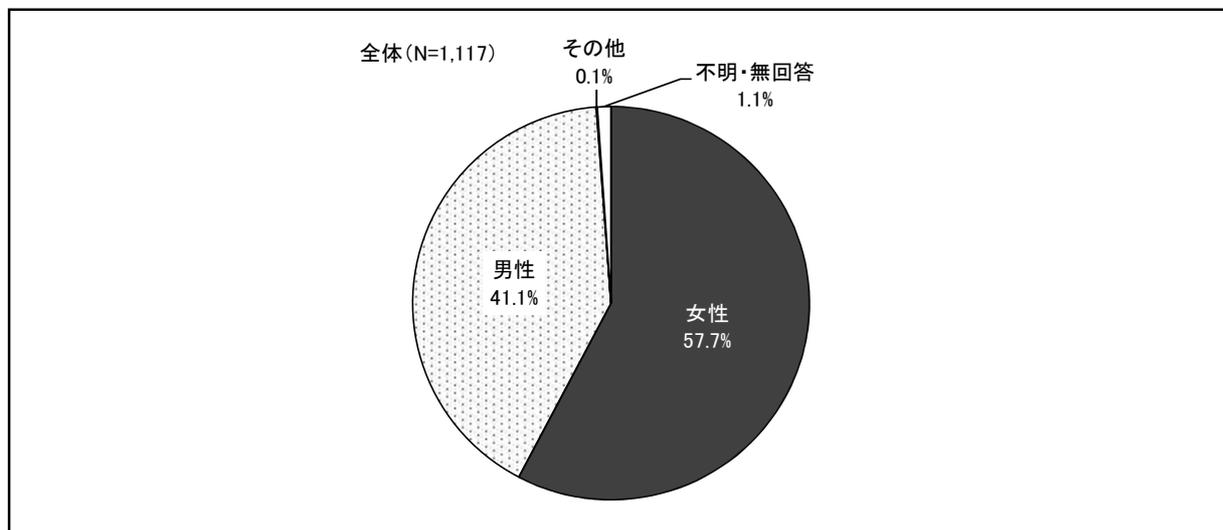
主要な標本における比率の標本誤差E（信頼度95%レベル）

	n数	P(%)									
		5.0% または 95.0%	10.0% または 90.0%	15.0% または 85.0%	20.0% または 80.0%	25.0% または 75.0%	30.0% または 70.0%	35.0% または 65.0%	40.0% または 60.0%	45.0% または 55.0%	50.0% または 50.0%
全体	1,117	±1.3	±1.8	±2.1	±2.3	±2.5	±2.7	±2.8	±2.9	±2.9	±2.9
女性	645	±1.7	±2.3	±2.8	±3.1	±3.3	±3.5	±3.7	±3.8	±3.8	±3.9
男性	459	±2.0	±2.7	±3.3	±3.7	±4.0	±4.2	±4.4	±4.5	±4.5	±4.6

## 5. 回答者の属性

問1 あなたの性別は。(〇は1つ)

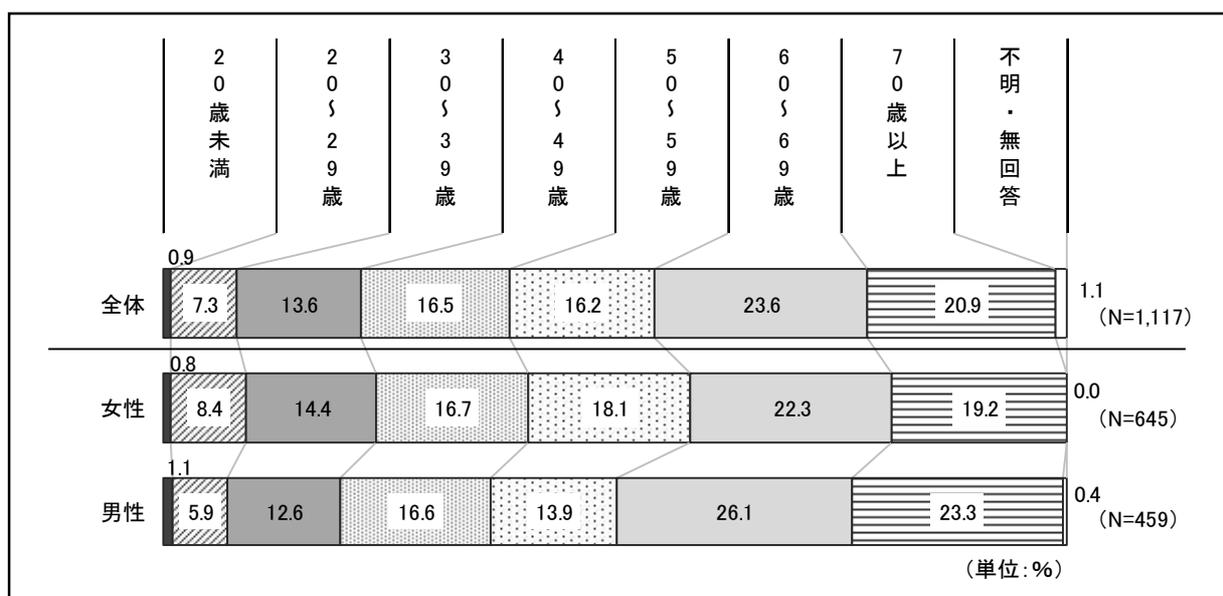
「女性」は57.7%、「男性」は41.1%と、女性の方が16.6%高くなっています。



問2 あなたの年齢は。(〇は1つ)

全体では、「60～69歳」が最も高く、次いで「70歳以上」が高くなっており、この二つの世代で4割以上となっています。

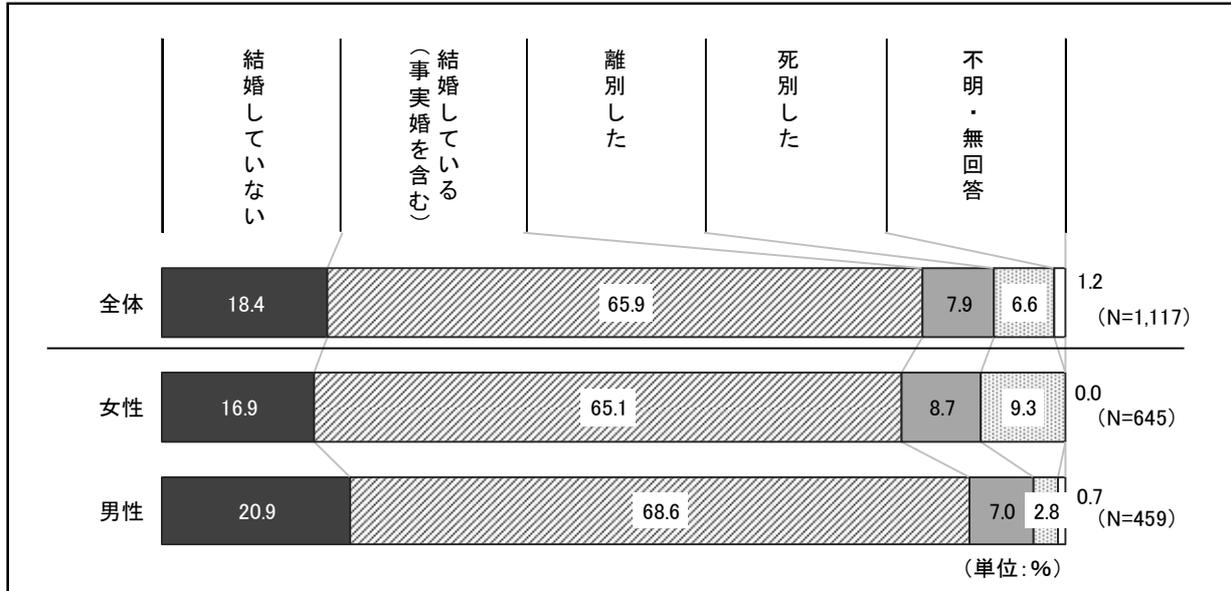
男女別にみると、同様の傾向となっていますが、男性の方が60歳以上の世代の比率がやや高くなっています。



問3 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。（〇は1つ）

全体では、「結婚している（事実婚を含む）」が65.9%、「結婚していない」が18.4%、「離別した」が7.9%、「死別した」が6.6%となっています。

性別・年齢別にみると、男女とも30歳未満では「結婚していない」の占める割合が高く、69歳以下の年代で、女性より男性の未婚率が高くなっています。また、女性の70歳以上で「死別した」が高くなっています。



性別・年齢別

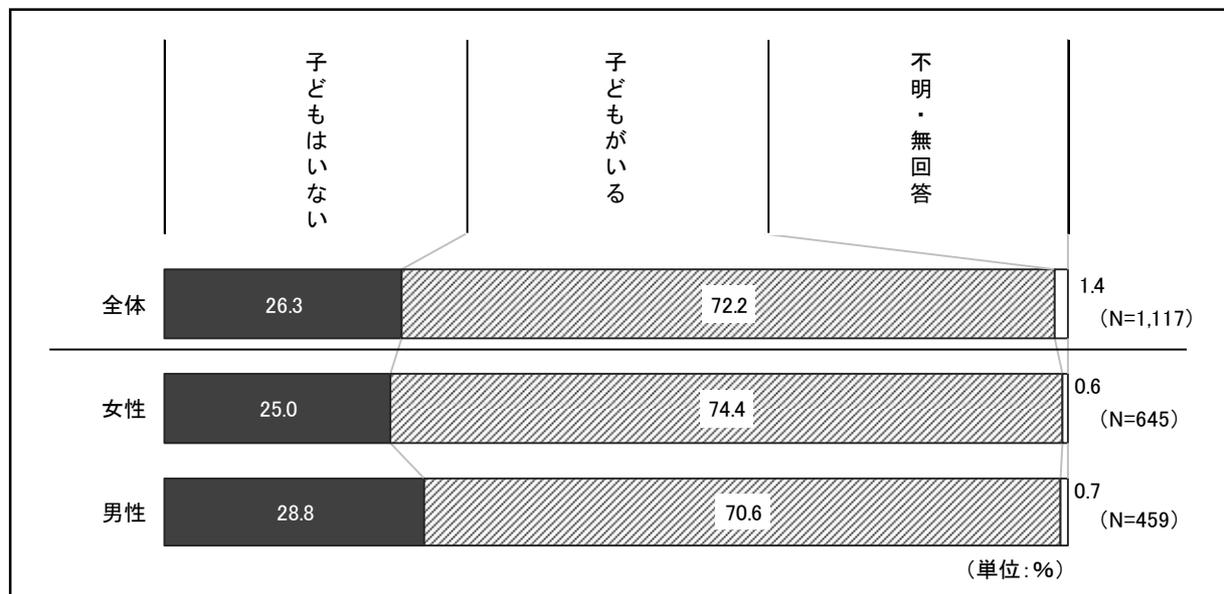
		対象者数（人）	結婚していない	結婚している（事実婚を含む）	離別した	死別した	不明・無回答
女性	30歳未満	59	74.6	25.4	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	93	24.7	71.0	4.3	0.0	0.0
	40～49歳	108	13.9	73.1	12.0	0.9	0.0
	50～59歳	117	6.0	79.5	11.1	3.4	0.0
	60～69歳	144	6.3	71.5	12.5	9.7	0.0
	70歳以上	124	8.9	51.6	6.5	33.1	0.0
男性	30歳未満	32	84.4	12.5	3.1	0.0	0.0
	30～39歳	58	39.7	56.9	3.4	0.0	0.0
	40～49歳	76	30.3	65.8	3.9	0.0	0.0
	50～59歳	64	15.6	76.6	6.3	1.6	0.0
	60～69歳	120	8.3	74.2	14.2	3.3	0.0
	70歳以上	107	2.8	84.1	4.7	7.5	0.9

(単位: %)

問4 あなたは、お子さんがいますか。(〇は1つ)

全体では、「子どもがいる」が72.2%となっており、女性の方がやや割合が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女とも年代が上がるほど「子どもがいる」割合が高くなる傾向にあります。



性別・年齢別

		対象者数 (人)	子どもはいない (%)	子どもがいる (%)	不明・無回答 (%)
女性	30歳未満	59	83.1	16.9	0.0
	30～39歳	93	37.6	61.3	1.1
	40～49歳	108	24.1	75.9	0.0
	50～59歳	117	17.1	82.9	0.0
	60～69歳	144	10.4	88.9	0.7
	70歳以上	124	12.9	85.5	1.6
男性	30歳未満	32	93.8	6.3	0.0
	30～39歳	58	51.7	46.6	1.7
	40～49歳	76	39.5	60.5	0.0
	50～59歳	64	25.0	75.0	0.0
	60～69歳	120	15.0	85.0	0.0
	70歳以上	107	7.5	92.5	0.0

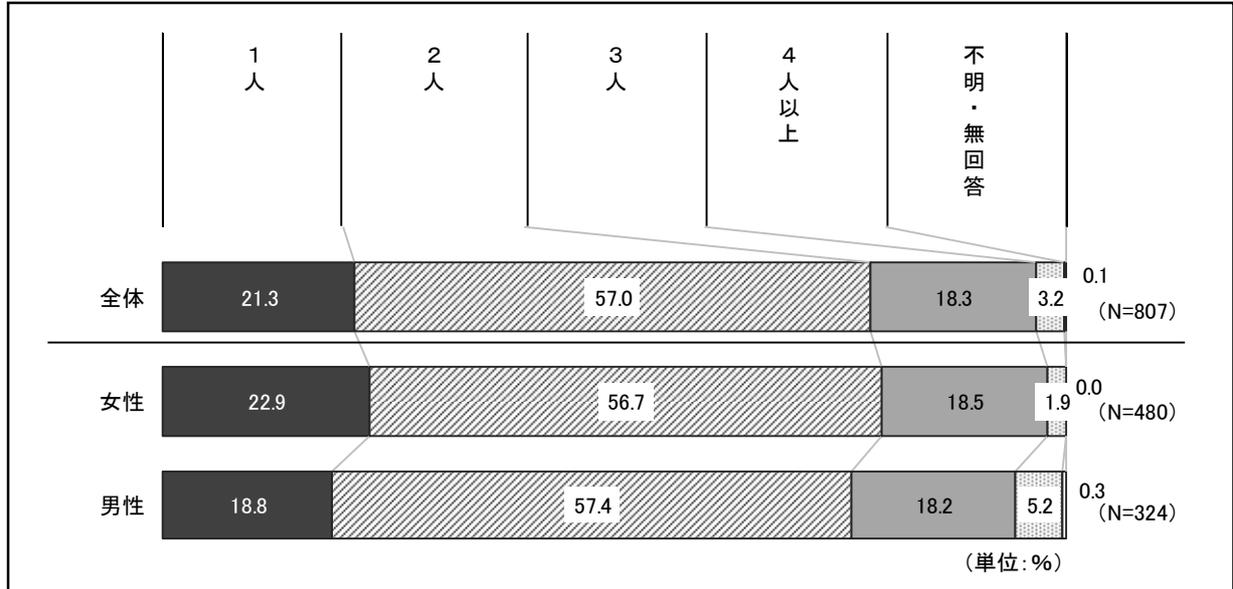
(単位: %)

問4で「子どもがいる」と回答された方

問4-1 何人の子どものいますか。(〇は1つ)

全体では、「2人」が57.0%となっており、3人以上の多子家庭は21.5%となっています。

性別・年齢別にみると、男女とも30歳未満では「1人」が最も高く、30歳以上では「2人」が最も高くなっています。



性別・年齢別

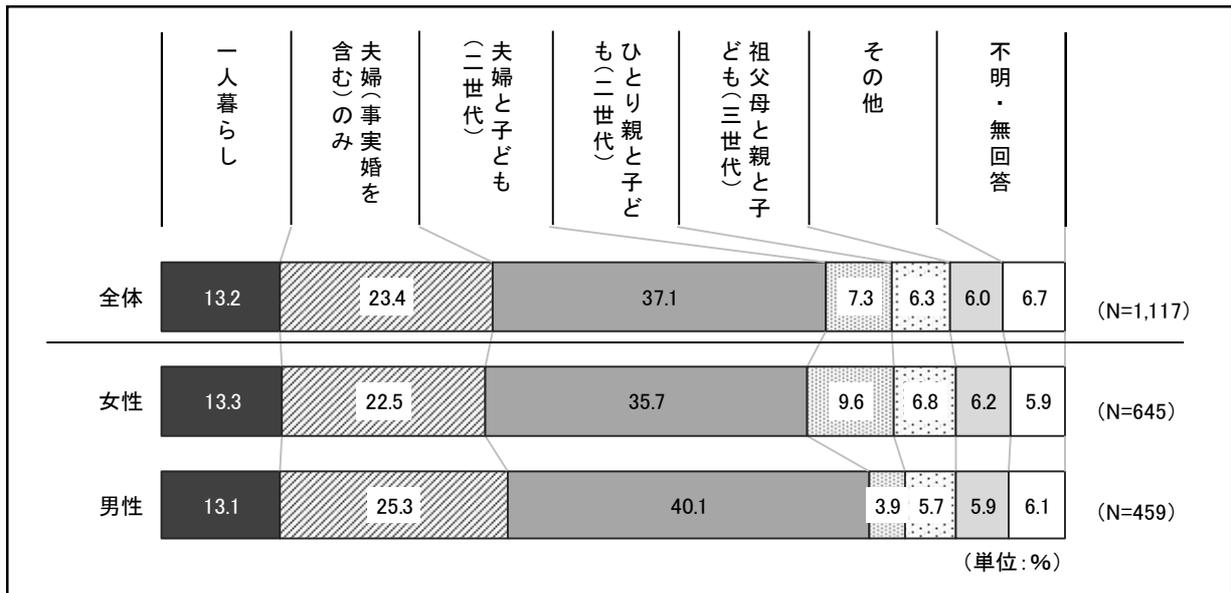
		対象者数 (人)	1人	2人	3人	4人以上	不明・無回答
女性	30歳未満	10	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	57	40.4	52.6	7.0	0.0	0.0
	40～49歳	82	24.4	50.0	22.0	3.7	0.0
	50～59歳	97	20.6	54.6	22.7	2.1	0.0
	60～69歳	128	17.2	66.4	15.6	0.8	0.0
	70歳以上	106	17.0	56.6	23.6	2.8	0.0
男性	30歳未満	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	27	37.0	51.9	11.1	0.0	0.0
	40～49歳	46	28.3	60.9	8.7	2.2	0.0
	50～59歳	48	8.3	56.3	20.8	12.5	2.1
	60～69歳	102	19.6	52.9	22.5	4.9	0.0
	70歳以上	99	12.1	63.6	19.2	5.1	0.0

(単位: %)

問5 あなたの世帯構成は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

全体では、「夫婦と子ども(二世帯)」が37.1%と最も高く、次いで「夫婦(事実婚を含む)のみ」、「一人暮らし」が続いており、男女別にみると、女性の方が「ひとり親と子ども(二世帯)」が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに60歳未満では「夫婦と子ども(二世帯)」が4割前半から5割後半と高くなっていますが、60歳以上では「夫婦(事実婚を含む)のみ」が増加しており、年代が上がるほど世帯規模が縮小する傾向にあります。また、女性では70歳以上で「一人暮らし」が32.3%と男性に比べて高くなっています。



性別・年齢別

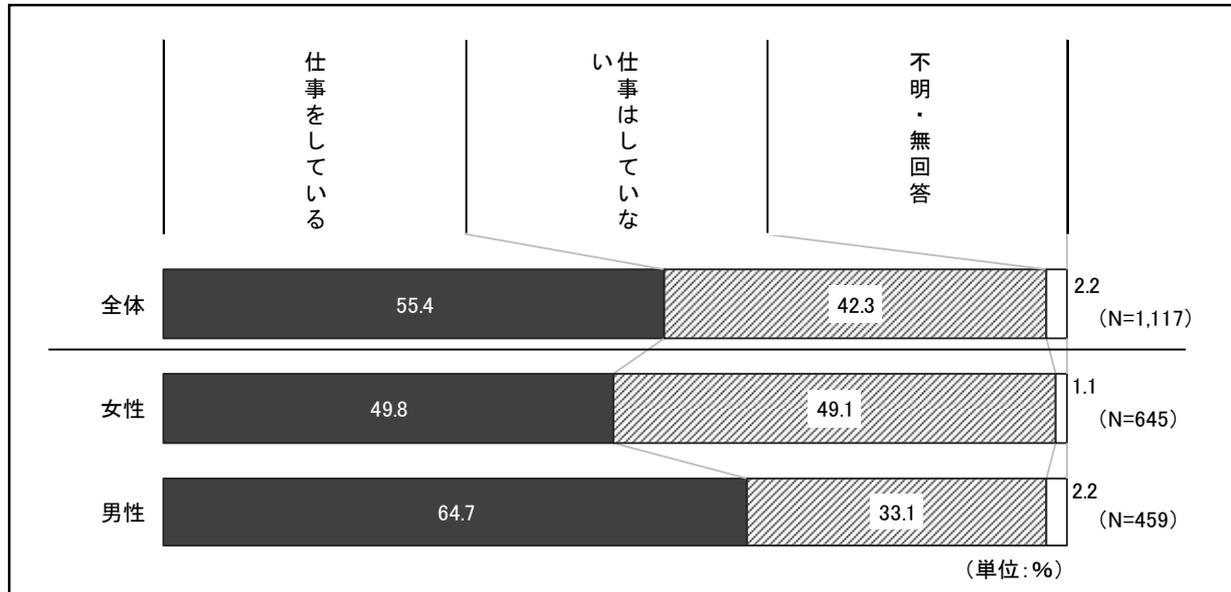
		対象者数(人)	一人暮らし	夫婦(事実婚を含む)のみ	夫婦と子ども(二世帯)	ひとり親と子ども(二世帯)	祖父母と親と子ども(三世帯)	その他	不明・無回答
女性	30歳未満	59	10.2	3.4	42.4	8.5	8.5	5.1	22.0
	30~39歳	93	7.5	10.8	52.7	5.4	7.5	5.4	10.8
	40~49歳	108	2.8	8.3	50.9	13.0	15.7	6.5	2.8
	50~59歳	117	6.0	17.9	45.3	10.3	10.3	6.8	3.4
	60~69歳	144	16.0	37.5	24.3	11.8	0.7	6.3	3.5
	70歳以上	124	32.3	39.5	10.5	7.3	1.6	6.5	2.4
男性	30歳未満	32	3.1	6.3	46.9	6.3	9.4	3.1	25.0
	30~39歳	58	17.2	10.3	44.8	0.0	3.4	13.8	10.3
	40~49歳	76	10.5	7.9	56.6	6.6	6.6	6.6	5.3
	50~59歳	64	10.9	14.1	54.7	6.3	6.3	4.7	3.1
	60~69歳	120	16.7	32.5	29.2	5.0	7.5	6.7	2.5
	70歳以上	107	13.1	50.5	28.0	0.9	2.8	1.9	2.8

(単位: %)

問6 あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

全体では、「仕事をしている」が55.4%、「仕事はしていない」が42.3%となっており、男性の方が女性より「仕事をしている」割合が14.9ポイント高くなっています。

性別・年齢別にみると、すべての年代で女性より男性の就労率が高くなっています。



性別・年齢別

		対象者数 (人)	仕事をしている (%)	仕事はしていない (%)	不明・無回答 (%)
女性	30歳未満	59	67.8	30.5	1.7
	30～39歳	93	69.9	28.0	2.2
	40～49歳	108	73.1	26.9	0.0
	50～59歳	117	63.2	36.8	0.0
	60～69歳	144	34.7	64.6	0.7
	70歳以上	124	10.5	87.1	2.4
男性	30歳未満	32	71.9	25.0	3.1
	30～39歳	58	89.7	3.4	6.9
	40～49歳	76	92.1	6.6	1.3
	50～59歳	64	89.1	9.4	1.6
	60～69歳	120	56.7	42.5	0.8
	70歳以上	107	25.2	73.8	0.9

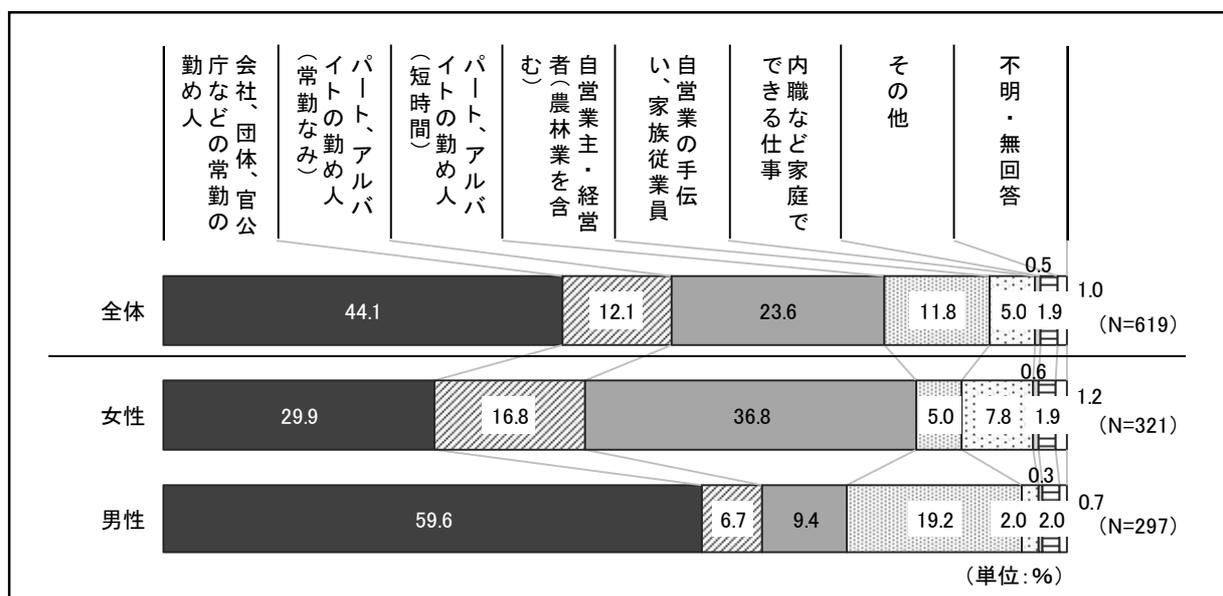
(単位: %)

問6で「仕事をしている」と回答された方

問6-1 それは、どのような働き方ですか。(〇は1つ)

全体では、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が44.1%と最も高くなっています。男女別にみると、女性では「パート、アルバイトの勤め人（短時間）」が36.8%、男性では「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が59.6%とそれぞれ最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、女性では「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」の割合は年代が上がるほど減少するのに対し、[パート、アルバイトの勤め人]（「パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）」と「パート、アルバイトの勤め人（短時間）」の合計）の割合は30歳未満から70歳未満にかけて増加する傾向にあります。一方、男性では30歳以上60歳未満では[パート、アルバイトの勤め人]はわずかであるものの、30歳未満、60歳以上では2割後半から3割前半とやや増加しています。



性別・年齢別

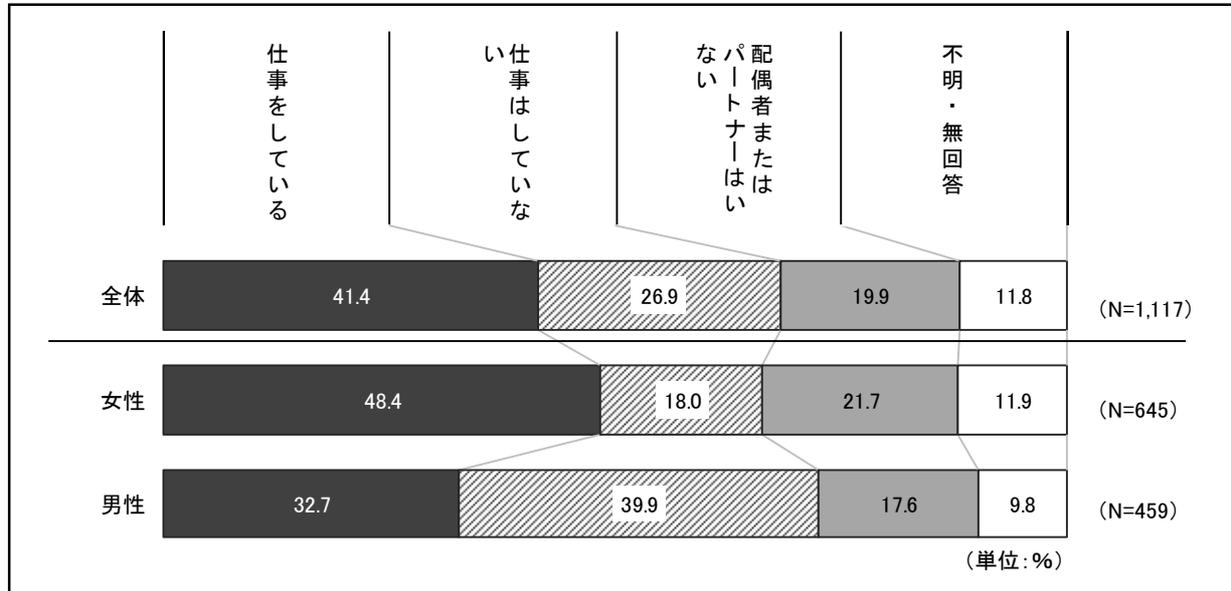
	対象者数 (人)	会社、団体、官公庁などの勤め人の割合 (%)	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）」の割合 (%)	パート、アルバイトの勤め人（短時間）」の割合 (%)	自営業主・経営者（農林業を含む）の割合 (%)	自営業の手伝い、家族従業員	内職など家庭でできる仕事	その他	不明・無回答
女性	40	57.5	20.0	17.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	65	38.5	18.5	29.2	6.2	3.1	1.5	3.1	0.0
	79	30.4	12.7	46.8	1.3	6.3	1.3	1.3	0.0
	74	25.7	17.6	35.1	6.8	12.2	0.0	1.4	1.4
	50	10.0	18.0	52.0	10.0	6.0	0.0	4.0	0.0
	13	0.0	15.4	23.1	7.7	46.2	0.0	0.0	7.7
男性	23	65.2	4.3	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
	52	76.9	3.8	1.9	11.5	3.8	0.0	1.9	0.0
	70	78.6	4.3	2.9	8.6	2.9	0.0	2.9	0.0
	57	68.4	3.5	3.5	24.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	68	33.8	13.2	19.1	32.4	1.5	0.0	0.0	0.0
	27	18.5	11.1	18.5	33.3	3.7	3.7	11.1	0.0

(単位: %)

問7 あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか。(〇は1つ)

全体では、「仕事をしている」が41.4%、「仕事はしていない」が26.9%となっています。

性別・年齢別にみると、女性の30歳以上60歳未満で「仕事をしている」が6割後半と、男性の同じ年齢層に比べて高くなっています。



性別・年齢別

		対象者数(人)	仕事をしている	仕事はしていない	配偶者またはパートナーはいない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	32.2	3.4	45.8	18.6
	30～39歳	93	68.8	1.1	21.5	8.6
	40～49歳	108	68.5	0.9	21.3	9.3
	50～59歳	117	67.5	10.3	16.2	6.0
	60～69歳	144	39.6	33.3	18.8	8.3
	70歳以上	124	15.3	41.9	19.4	23.4
男性	30歳未満	32	18.8	6.3	56.3	18.8
	30～39歳	58	31.0	34.5	25.9	8.6
	40～49歳	76	47.4	26.3	21.1	5.3
	50～59歳	64	45.3	35.9	17.2	1.6
	60～69歳	120	36.7	40.8	7.5	15.0
	70歳以上	107	15.9	64.5	11.2	8.4

(単位: %)

問7で「仕事をしている」と回答された方

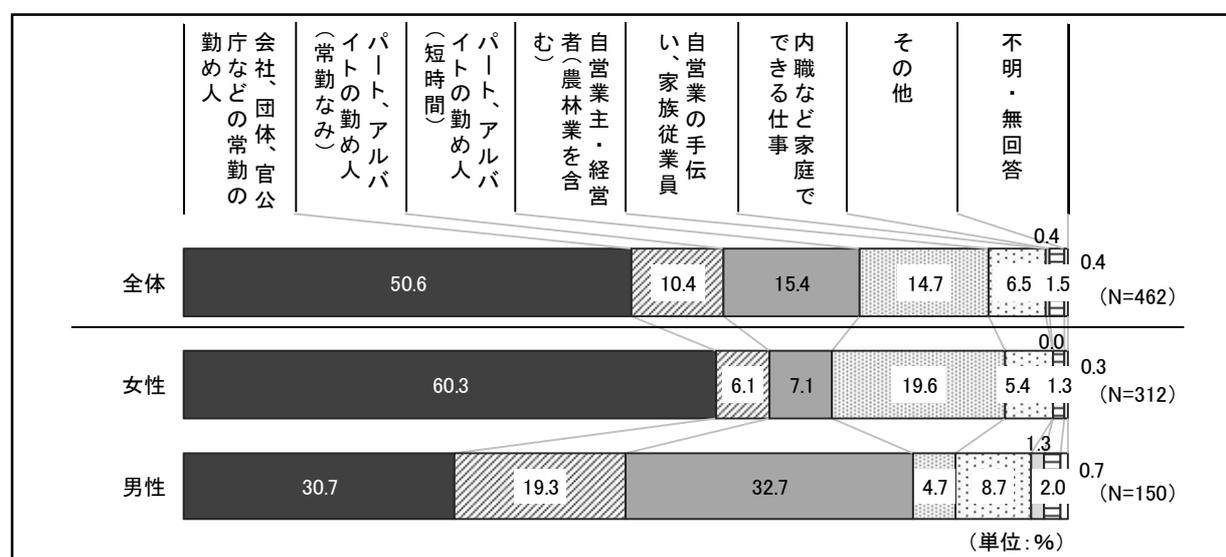
問7-1 あなたの配偶者またはパートナーの働き方は次のどれにあたりますか。

(○は1つ)

「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」の割合が全体では50.6%と半数を占めていますが、女性では60.3%、男性では30.7%と29.6ポイント女性の方が高くなっています。

性別・年齢別でみると、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」は男女ともに年代が上がるほど減少する傾向にあります。

本人および配偶者等の就業状況をみると、常勤の勤め人の回答者について配偶者等が同じ「常勤の勤め人」であるのは、女性では38.5%、男性では19.2%と女性の方が高くなっています。また、片働き家庭の状況は、女性回答者が無職で配偶者が働いている割合は35.6%、男性回答者が無職で配偶者が働いている割合は12.6%と、片働き家庭では女性が無職である場合が多くなっています。



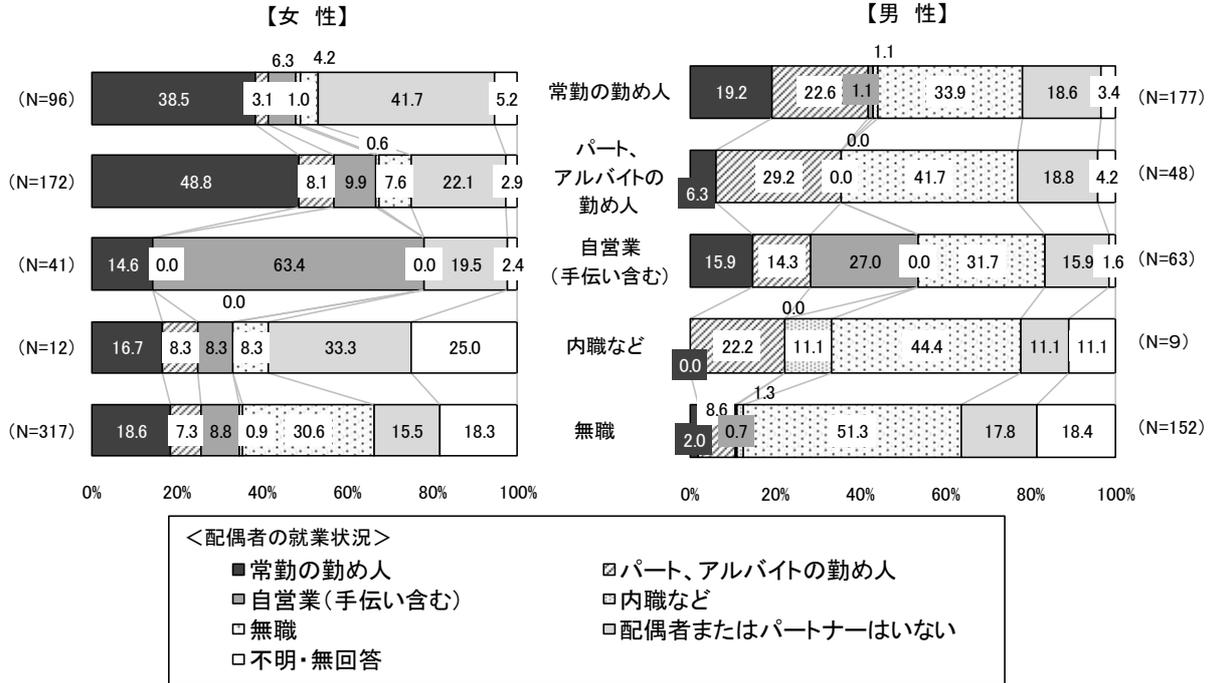
性別・年齢別

	対象者数 (人)	会社、団体、官公庁などの勤め人の割合 (%)	パート、アルバイトの勤め人 (常勤なみ) (%)	パート、アルバイトの勤め人 (短時間) (%)	自営業 (経営者・農林業を含む) (%)	自営業の家族従業員 (%)	内職など家庭でできる仕事 (%)	その他 (%)	不明・無回答 (%)
女性	30歳未満	19	84.2	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30~39歳	64	82.8	1.6	1.6	12.5	1.6	0.0	0.0
	40~49歳	74	75.7	0.0	2.7	14.9	5.4	0.0	1.4
	50~59歳	79	53.2	5.1	2.5	29.1	6.3	0.0	2.5
	60~69歳	57	31.6	21.1	19.3	19.3	8.8	0.0	0.0
	70歳以上	19	15.8	0.0	26.3	42.1	10.5	0.0	5.3
男性	30歳未満	6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30~39歳	18	50.0	11.1	16.7	0.0	11.1	5.6	5.6
	40~49歳	36	25.0	27.8	41.7	0.0	2.8	2.8	0.0
	50~59歳	29	37.9	13.8	37.9	0.0	10.3	0.0	0.0
	60~69歳	44	22.7	22.7	34.1	4.5	11.4	0.0	2.3
	70歳以上	17	11.8	11.8	29.4	29.4	11.8	0.0	5.9

(単位: %)

[参考] 回答者および配偶者等の就業状況（問6+問6-1と問7+問7-1のクロス集計）

<回答者の性別・就業状況>



選択肢は以下のように分類しています。

- 常勤の勤め人 …会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人
- パート、アルバイトの勤め人 …パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）、パート、アルバイトの勤め人（短時間）
- 自営業（手伝い含む） …自営業主・経営者（農林業を含む）、自営業の手伝い、家族従業員
- 内職など …内職など家庭でできる仕事、その他、仕事をしている（無回答）
- 無職 …仕事はしていない

## 6. 主な調査結果

問内容	調査結果
<b>仕事について</b>	
週当たり労働時間(問8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約半分が週当たりの労働時間は40時間未満</li> <li>・男性の週60時間以上働く長時間労働者は15.2%(女性は2.5%)</li> <li>・男性の40歳代では4分の1が長時間労働をしている</li> <li>・常勤の勤め人では男女ともに4分の3が週40時間以上働いている</li> </ul>
年間収入(問9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の収入は200万円未満が60.7%</li> <li>・平成21年度調査時と同様、男女の収入差は大きい</li> <li>・男性の70歳未満では年代が上がるほど収入が増加傾向にあるが、女性は年代が上がるほど200万円未満の割合が増加している</li> <li>・同じ就労形態でも女性の収入の方が低い</li> </ul>
仕事のストレス(問10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の人間関係でストレスを抱えている人が多い</li> <li>・育児や介護のストレスは女性の方が多い</li> <li>・常勤の勤め人では他の就業形態より人間関係や就労時間、休みがとれないことなど、抱えるストレスが多い</li> </ul>
職場での対応や評価における性差(問11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『管理職への登用』『昇進・昇格』『賃金』は全体で男性優遇感が高くなっている</li> <li>・『育児・介護休業などの取得に関して』は全体で女性優遇感が高くなっている</li> <li>・男性自身、育児・介護休業以外の職場のあらゆる対応や評価について男性優遇であると感じている</li> <li>・女性自身、採用の仕方や数については男性より女性が優遇されていると感じている</li> </ul>
離職・転職の状況および理由(問12、問12-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の方が離職・転職経験のある人が多い</li> <li>・30歳未満で離職・転職経験のある人は女性で55.0%、男性で21.7%と、女性の方が若い時に離職・転職を経験している</li> <li>・非正規雇用者の方が離職・転職経験のある人が多い</li> <li>・女性の離職・転職理由は「結婚」「社内の人間関係の不和」「出産」となっている</li> <li>・男性の離職・転職理由は「経営方針の相違、将来性への不安」「給与や昇進への不満」となっている</li> </ul>
仕事をしていない理由(問13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性では「定年退職した」が40.8%、「健康上の問題がある」が22.4%となっている</li> <li>・「家事や子育てをしている」との理由は女性のみが回答している</li> </ul>
今後の就労意向および不安(問14、問14-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の就労意向が男性に比べて高い</li> <li>・若い年代の就労意向が高い</li> <li>・今後、仕事につく上で「年齢制限」「自分の健康状態や体力」に不安を感じている人が多い</li> <li>・「家事、子育て、介護との両立ができるか」という不安は男女ともに前回調査より増加している</li> </ul>
男女が仕事と生活の調和を図るために必要と思うこと(問15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事と生活の調和を図るため、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」「保育所(園)、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が特に求められている</li> <li>・女性では「家族や配偶者(パートナー)の理解・協力」、男性では「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」もそれぞれ高い</li> </ul>
ダイバーシティ推進への考え方(問16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体では「進めたほうがよい」が約6割となっている</li> <li>・全体では「わからない」が11.2%、「不明・無回答」が13.9%と、ダイバーシティの推進について4分の1の人の考え方が示されていない</li> </ul>

問内容	調査結果
<b>日常生活や子育てについて</b>	
日常生活における考え方(問 17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てや家庭の経済面に関する固定的な性別役割分担意識は強い</li> <li>・育児や介護、管理職については「どちらともいえないと思う」の割合が高い</li> </ul>
平日の生活時間(問 18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家事・育児・介護など」は女性の方が長く、「仕事・通勤あるいは学業・通学」は男性の方が長く、時間差が大きい</li> <li>・「家事・育児・介護など」は女性で約5時間、男性で2時間となっており、女性の30歳以上50歳未満で6時間以上と特に長い</li> </ul>
暮らし方の希望と現実(問 19 問 20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が現実では、女性は家庭生活、男性は仕事をそれぞれ優先している</li> <li>・男性の方が希望と現実の暮らし方が合致している人が多い</li> </ul>
育児休業・介護休業の取得状況(問 21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児休業、介護休業ともに男性より女性の取得者が多く、男性はわずかである</li> </ul>
望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方(問 22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が望む生き方は「再就職型」が26.0%、実際の生き方は「就労継続型」が18.3%と高い</li> <li>・結婚・子育てと就労についての希望と現実が合致している人は少ない</li> </ul>
子どもの将来像として望む生き方(問 23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女の子には「人間性豊かな生活をする」「家族や周りの人たちと円満に暮らす」ことが望まれている</li> <li>・男の子には「経済的に自立した生活をする」が最も望まれている</li> </ul>
婚外子についての考え方(問 24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婚外子に「抵抗がある」人は全体で58.1%</li> <li>・「わからない」との回答も全体で1割おり、他の年代と比較して60歳以上で高くなっている</li> </ul>
男女平等を進めるために重要な小・中学校の取り組み(問 25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女平等を進める小・中学校の取り組みは進路指導を重視している</li> <li>・男性の30歳未満でメディア・リテラシー教育を重視する人が多くなっている</li> </ul>
<b>男女の地位に関する意識について</b>	
男女の地位の平等感(問 26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女で「平等である」の割合が5割以上なのは『学校教育の場』となっている</li> <li>・「男性が優遇」が最も高いのは『職場(賃金や待遇など)では』となっている</li> <li>・全国と比較して『家庭生活の場では』の「平等である」割合が特に下回っている</li> </ul>
固定的な性別役割分担意識について(問 27、問 27-1、問 27-2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定的な性別役割分担意識について、「同感する」より「同感しない」ほうが高い</li> <li>・「同感する」割合は前々回調査以降、減少している</li> <li>・70歳以上では「同感しない」より「同感する」ほうが高い</li> <li>・「同感である」と思う理由は「男女で違う役割を感じるから」が最も高い</li> <li>・「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」は女性では年代が上がるほど高くなる</li> <li>・「同感しない」と思う理由は、全体で「社会の風潮・慣習としてそう感じると感じるから」が44.4%、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」が38.4%</li> <li>・年代が上がるほど「社会の風潮・慣習としてそう感じると感じるから」が増加する傾向にあり、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」は年齢が若いほど増加する傾向にある</li> </ul>

問内容	調査結果
<b>地域活動や健康、老後の暮らしについて</b>	
防災・災害復興対策における性別への配慮(問28、問28-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約8割が性別に配慮した防災・災害復興対策の「必要がある」と考えている</li> <li>・避難所の設備や運営、災害時の救援医療体制の必要性が高い</li> </ul>
生活の中でのストレス(問29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『老後の生活(経済や健康)』『経済的なことで』に強いストレスを感じている</li> <li>・『子どものことで』『家事の負担』はすべての年代で女性の方が強いストレスを感じている</li> </ul>
地域活動への参加状況および参加していない理由(問30、問30-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地域における趣味・スポーツ・学習の活動』への参加意向が高い</li> <li>・『民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動』への参加意向が低い</li> <li>・参加したくない理由は「人間関係がわずらわしいから」「あまり関心がないから」となっている</li> <li>・「あまり関心がないから」は女性の30歳未満で特に高く、男性でも50歳未満で他の年代に比べて高い</li> </ul>
希望する介護者(問31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性は「施設での介護」「ヘルパーなどの介護従事者」などの専門機関での介護を望んでいる</li> <li>・男性は約半数が「妻」の介護を望んでいる</li> </ul>
老後の生活の不安の内容(問32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老後の生活の不安要素は「経済的にやっていけるか」「健康で過ごせるか」となっている</li> </ul>
老後にやりたいこと(問33)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老後にやりたいことは、男女ともに「趣味の活動」「旅行」となっている</li> </ul>
「男もつらい」と感じることの有無および内容(問34、問34-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過半数の男性が「男もつらい」と感じており、他の年代と比較して60歳未満では約7割と高くなっている</li> <li>・「仕事の責任が大きい、仕事ができたり前だと言われる」が28.9%と高く、30歳以上60歳未満に多い</li> <li>・30歳未満では「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が高い</li> </ul>
女性の心とからだの健康を保つために必要な取り組み(問35)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談』を「よく知っている」のは37.2%</li> <li>・『リフレッシュできるような場の提供』は「知らない」が73.0%と認知度が低くなっている</li> </ul>
<b>人権の尊重について</b>	
女性の人権が尊重されていないと感じる内容(問36)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性犯罪やセクシュアル・ハラスメント等の女性の人権に対する認識は高くても半数程度で、「特にない」と考える人も1割程度おり、認識は高くない</li> <li>・女性より男性の認識が低い</li> </ul>
配偶者やパートナー、恋人からの暴力経験と対応(問37、問37-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暴力の被害経験は男性より女性が多い</li> <li>・『平手で打つ』などの身体的暴力や『大声でどなったり、物を壊したりする』などの精神的暴力が多い</li> <li>・加害経験者は40歳未満では男性より女性、40歳以上では女性より男性が多い。</li> <li>・暴力行為後に「二人(夫と妻、パートナー・恋人同士)で話し合った」が女性で39.2%、男性で58.7%と高い</li> <li>・「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」割合は男性より女性の方が高い</li> <li>・「相談するほどの事ではないと思った」が男女ともに高くなっているが、女性では、「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すればやっていけるといった」の割合が男性より高い</li> </ul>
<b>男女共同参画社会の形成に関する意識について</b>	
「男女共同参画」を推進するために参加したい活動(問38)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「男女共同参画」の推進活動への参加について、約半数は「特にない・わからない」となっている</li> <li>・「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「子育て支援に関する活動に参加する」がともに1割前半</li> </ul>
法律や言葉、市の取り組みの認知度(問39)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ドメスティック・バイオレンス(DV)』『男女雇用機会均等法』『育児・介護休業法』の認知度が比較的高い</li> <li>・前回調査より男女共同参画に関する法律や言葉、東大阪市の取り組みが浸透しはじめている</li> </ul>

